カゼ（呼吸器病）を予防しましょう！！！

牛のカゼ（呼吸器病）は様々な原因で起こります。ウイルスと細菌などが複合的に感染し、ストレス等が加わって発生する牛呼吸器病症候群（ＢＲＤＣ）と呼ばれ、死亡率が高く、回復した場合でも、多くは発育不良となり、経済的被害の大きな病気です。

1　呼吸器病はなぜ起こるの？

① 換気不良で畜舎にアンモニア・ほこりが充満
② 気候の変化・密飼いによる環境ストレス
③ 輸送によるストレス

④ ウイルスの感染(咳カゼ様)

⑤ 細菌の感染・増殖(鼻カゼ様)

肺炎(ＢＲＤＣ)の発症！

アンモニア等が、喉・気管の粘膜を刺激・損傷させます。

例えば･･･牛 RS ウイルス病は冬に多く、集団発生する病気です。

例えば･･･マイコプラズマ肺炎は 1～3 か月齢の子牛に多く発生します。

2　どんな症状？

（１）発熱(39.5～40.0 度以上)　　【健康な子牛の体温は通常 38.5～39.5 度】
（２）咳、鼻水、呼吸が異常に早い　　【健康な子牛の呼吸数は通常 1 分間に約 20～30 回】
（３）元気消失、起立不能、哺乳困難、虚弱
（４）短期間に、牛舎内の子牛(時には母牛も…)に拡がる。

【鼻水を呈す】

【咳はエネルギーを消耗】

【元気がない子牛】

出典；家畜疾病カラーアトラス（農水）

3　病気を出さない管理とは？

（１）清潔な環境

①　牛舎内の温度は 18℃前後が理想的です。子牛は気温への順応が苦手です。保温や換気を小まめに行い、子牛の快適な温度を保ちましょう。
②　アンモニアは肺の組織を傷つけます。臭気がこもらないよう換気しましょう。
③　汚れた敷料は、下痢の原因となる病原体の温床です。またアンモニア発生の原因にもなります。乾燥した敷料を小まめに交換しましょう。
④　牛舎を明るくすることで汚れを見つけやすくしてください。紫外線によって病原体を死滅させる効果もあります。
⑤　牛 1 頭あたりの面積を十分に確保しましょう。密飼いは病気のもとです。

（2）子牛の管理

子牛が生まれたら、体をよく拭いて皮毛を早く乾かしてあげることが大切です。冬は子牛を寒さから守る対策(保温ランプの設置やカウジャケットの着用)もしっかりと行いましょう。
子牛が濡れた状態で風にさらされると、体温を奪われて体力が消耗してしまい、ひどい時は死亡することもあります。

（3）導入牛の管理

導入した牛から病気が拡がることがあります。導入後 2 週間程度は隔離飼養し、観察することが重要です。カーフハッチなどの利用により、他の牛との接触を防止することも感染を防ぐために効果があります。牛舎環境や農場のスペースに応じて、飼育管理方法を工夫してみましょう。

4 病気を防ぐ対策を

（1）ワクチン接種

ウイルスや細菌の感染に対抗するには、ワクチン接種が第一です。

市場に上場する際に義務付けられているワクチンも、より効果の得られる時期に接種してください。また、自家保留する場合でも必ず接種しましょう。母牛にも定期的に接種することで免疫を補強し、初乳から子牛に移行する免疫の効果を高めるようにしましょう。

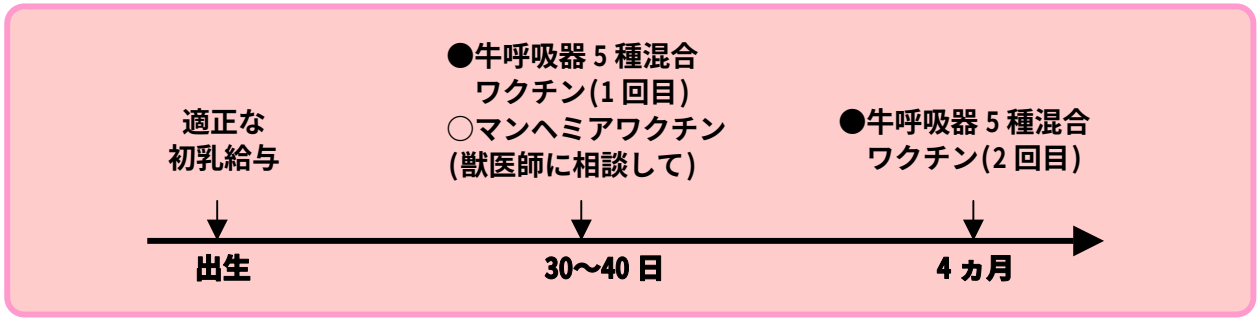
ワクチン	効果	接種方法
・牛 5 種混合ワクチン ・牛 6 種混合ワクチン	複数のウイルス感染から子牛を守ります	子牛　生後 1 ヵ月　4～5 ヵ月齢 母牛　種付け前　種付け
・ﾏﾝﾍﾐｱ不活化ワクチン	一番多い細菌感染から子牛を守ります	子牛；生後 1 ヵ月で 1 回接種 (発症時期で投与が異なるので獣医師に相談が必要)

（2）早期の治療

病気の発見が遅れると、症状を重くするばかりか、治療にも時間がかかります。

特に、子牛の時期（特に生後～３か月）にこじれる(ヒネる)と、その後の発育に影響します。性別や治療期間で異なりますが、肺炎にかかった子牛は**約１万円**（こじれた分の増体の低下、治療費から算出。肉牛マニュアルより）の損失となります。『いつもと違うかな？』と思ったら獣医師に相談し、早めに治療しましょう！

5 子牛の呼吸器病予防管理プログラム例



問い合わせ　岩手県中央家畜保健衛生所　衛生課
TEL 019-688-4111　FAX 019-6884012